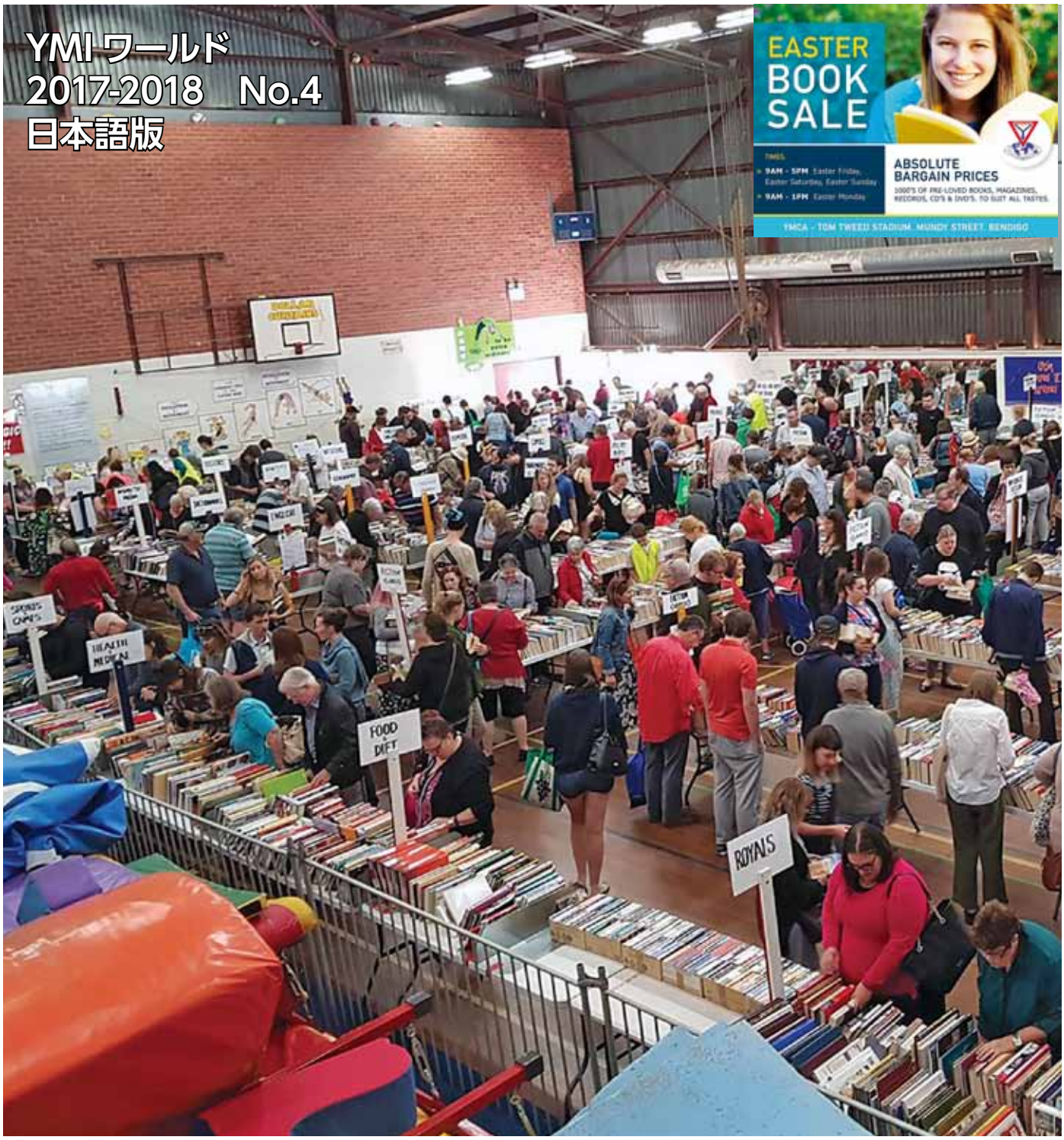
Y's Men International
Y Service Clubs International

YMI WORLD

"To acknowledge the duty that accompanies every right"

Only for private distribution to members



国際会長の手紙:「すごく良い年だった」、「どうか私たちに、挑戦し、変革する勇気を持たせてください」(次期国際会長・ムン・サン・ボンへのインタビュー)、次期地域会長の来期への挑戦と展望、国際書記長:3 人のリーダーは 1 人よりベターか?、寄稿:際立つために生まれたのに、なぜ溶け込もうとしてしまうのか?、ワイズメンズクラブのリーダー達が TOF-GPF プロジェクトを見学するためブラジルに立ち寄る、TOF-GPF プロジェクトのさらなる事例、コミュニティサービスの事例、EMC の推進、魂の真言:プレゼンテ！バスタ!(マックス・エディガー)

読者の皆さまへ

あと数日で私たちの運動の1年がまた終わろうとしていますが、今年度のYMIワールドの最終号を喜びの内にお届けいたします。

今号では、国際と地域レベルで私たちの組織を担うリーダーたちの計画と抱負の詳細をお伝えします。ムン・サン・ボン（Moon San-bong）次期国際会長は、今年初めに次期理事、次期部長の研修のためにインドに滞在していました。大変忙しいスケジュールでしたので、お願いしていたほどのインタビューの時間は取れませんでしたが、のちほど私たちの質問に親切にeメールで答えてくれました。それらは今号に掲載しています。ムン次期国際会長は、変化が必要とされており、チャレンジすること、より良くするための変化への勇気を持たなくてはならないと断言しています。同じように、チリのバルパライソで開催された年央会議での文書に接し、次期の地域会長の関連する報告から、地域のリーダー達の抱負の一端を読者に提供するべく抜き出しました。ムン次期国際会長と全ての地域会長は新しい年度に向けて称賛に値する努力を始めています。健闘を祈ります。

今号において皆さんの注意を喚起しようと考えた地球規模の関心事は、「多様性と職場」です。これは私たちの多くがきれいごとで済まそうとする問題です。多文化的な環境と背景で生活し、働くことに際しては、この問題に敏感であることが必須です。トム・ベルガッセ博士は、彼の略歴が示すように、国際的なコンサルタント、文化アドバイザーですが、最近、個人的な用事でインドに来た折に雑談を交わすことができました。彼の、どんな職場における多様性も一体性（inclusion）に公平な焦点を当てることなしには完全には実現できないとの断言は熟考すべき点です。彼は、「もし、私たちが多様性を、私たちには違いがあり、それが人間というものだと定めるなら、一体性は、私たちがこれらの違いについて尊重し、認め、理解する能力です。」と続けます。今号にブログを引用することを許可いただいたトム博士に感謝申し上げます。

西村国際書記長は、私たちの運動におけるトロイカの重要性について簡潔に示しています。それは、長い間私たちそして他の奉仕クラブによって従ってこられたリーダーシップの方式です。このようなリーダーシップは、考えや行動の継続性を確保し、さらに、新しいリーダーに、新しいアイデアを提案する融通性も与えます。

今号は、TOF-GPFプロジェクトからの多くの、主として南アメリカの話題も掲載しています。私たちのリーダー、IHQのスタッフメンバーが、これらのプロジェクトを自分の目で見て、社会に対してもたらした社会的変化の価値を確かめたのは良いことです。

最後に、今回皆さんと分かち合いたいと思って選んだ本は、「心のチキンスープ」シリーズの中の1冊です。101の、ボランティアと社会への恩返しについての決心と情熱についての感激させる話が含まれています。どうぞ満喫してください。

ヨスで皆さんとお会いできることを願いつつ

コシー・マシュー

表紙：オーストラリアのベンディゴクラブのフェースブックのページから。ベンディゴのYMCAへの献金のための年に2度の古本市。この写真は、最近のイースター期間中のセールスのもの。挿入されているのは活動を案内するチラシ。

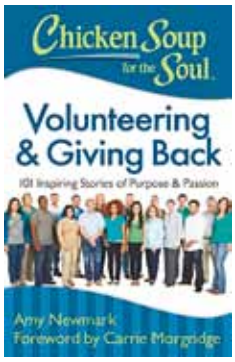
ワイズメンインターショナル
ワイサービスクラブズインターナショナル公式誌
国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス
国際編集長:コシー・マシュー
日本語版翻訳グループ:田中博之（委員長、東京多摩みなみ）、
青木一芳（千葉）、今城高之（横浜つづき）、利根川恵子（川越）、
太田勝人（東京世田谷）、倉田正昭（京都）、
谷川寛（大阪センテニアル）、谷本秀康（東広島）
印刷:（株）三浦印刷所　三浦克文（岡山）

私の本棚から

心のチキンスープ:ボランティアと恩返し:決心と情熱についての101の感激させる話:
アミー・ニューマーク、メアリー・ヴィグリアンテ・シドルヴスキー

一人の人間が他の者の人生に大きな違いを与えることができます。この101の感激する話のコレクションは、ボランティアと恩返しする人々を賛美しています。そして、最も大きな利益を得る者は、与える者自身であることを示しています。

ボランティアと恩返しする人々は、無条件の親切、共感そして愛の見本です。あなたは絶望でなく希望を、皮肉ではなく楽観主義を、無関心ではなく心配りを選びます。そして、他者に仕えることであなたはあなた自身を助けているのです。ボランティアと恩返しする人々によって、またそれらの人々のためのこの101の感激させる話のコレクションによって、あなたの世に知られていない仲間の英雄は、きっと相応しい評価と感謝が得られることでしょう。



（A Goodreads Review）

すごく良い年だった

私の国際会長としての任期は、間もなく終わりを迎えます。「すごく良い年だった」というのは50年ほど前にフランク・シナトラが作った歌曲の題です。シナトラはその曲で、彼が人生の途上で出会った女性たちのことを歌っています。私は、その主題を変えて、この年度中の種々の機会や訪問に際して出会った世界中の人々のことを想起したいと思います。

私の国際会長年度は、昨年ロシアのサンクトペテルブルグで始まりました。その地で7月1日に開かれたロシア区大会、兼私の所属クラブと同地のクラブとのIBC25周年記念会に出席したのです。私はこの日、それまで数年続けた欧州地域のロシアへの助言役を終え、国際会長の役に就いたのでした。その後私は、国際会長として、韓国、インド、米国、タイ、および欧州の数か所へ訪問旅行しました。

訪問先の至るところで、私は献身的なワイズメンに出会いました。彼らはワイズメンとして、またその地のYMCAの協力者として、地域奉仕に励んでいました。私も彼らの仲間として迎え入れられ、こうして世界中につながる友情を確立していきました。

私たちは、皆大きな家族の一員で、**友情は確かに国境を超えて存在し**、身についた文化は違っていても共に前向きに進んでいく、と感じます。

国際会長の役目は、訪問旅行だけではなく、国際協会を代表すること、式典を主催することも含みます。日夜パソコンに向かってオンラインの会議を開催し、世界中の会員との協調を図ることも役目です。この地位は、私に大きな課題、折衝、ときには挫折感も味わいましたが、多くは奉仕の喜び、高揚感、そして感謝の念を与えてくれました。「**強い義務感を持とう　義務はすべての権利に伴う**」とのモットーを常に覚えつつ過ごしました。

年央会議 2017(ラスベガス) での地域役員との計画立案

ジョアン・ウィルソン国際会長 (2016-17) がヘンリー・グリンドハイム氏に次期国際会長を引き継ぐ (2016 年 8 月タイペイで)。右はウィチャン・ブーンマパジョン直前国際会長 (いずれも当時)

国際会長の立場は、チームワークの面も持っています。直前・現・次期の3人の国際会長トロイカのひとりとして、また、国際執行役員（IEO（国際会長・次期国際会長・直前国際会長・国際会計））のひとりとして、私は、年度を通じこれらの仲間と緊密に協力し任務を遂行してきました。お互いよく知り合い、親友と呼べる関係になりました。課題に直面すると互いに助力に立ちあがりました。地域役員や国際議員の皆さんとも良いチームワークを築くことができたことに深く感謝しています。他にも頂いた激励すべてに謝意を表します。

国際役員の任務を他の方々に引き継ぎ、私は自分の属するクラブに徐々に戻ります。帰るべきところがあるというのは幸いなことです。国際の指導者も皆、ひとつのクラブのメンバーとして出発したこと、そして各クラブとその活動こそがワイズメンの運動の存在基盤であることを決して忘れてはなりません。

「ともに、光の中を歩もう」が私の国際会長主題でした。私の望み、祈りは、私たちの世界的な運動が同じ方向へ歩みを続け、もうすぐやってくる2022年のワイズ100周年の祝賀に備えるということです。時はどんどん過ぎます。ワイズの活動が地域社会に認知され、新しい人たちを会員に招き入れ、YMCAとの関係を強めて、私たちを必要としている近隣の、また、世界の人々のために奉仕するものとなるように、私たちは日々心掛けつつ記念の時を迎えたいと思います。

神が私の国際会長年度を祝福され、私の歩みを護られたことに感謝します。どうか、間もなく私の職務を継ぐムン・サン・ボン氏の上に、神の護りと導きがありますように。

ノルウェー・アスケルにて　2018年6月

ヘンリー・グリンドハイム　国際会長2017/2018

どうか私たちに、挑戦し、変革する勇気を持たせてください。

次期国際会長　ムン・サン・ボン

ムン・サン・ボン次期国際会長は、自身の「ビジョン、ゴール、優先順位」について詳しく述べられました。YMI 編集長コシー・マシューが、2 月にインド・ケララ州コチで行われた RDE トレーニングの際に尋ね、さらに幾つかの質問を投げかけました。以下は、ムン・サン・ボン国際会長への質問とその答えです。

YMIW（YMI ワールド編集長）：あなたは在職中に取り組みたい 4 つの「挑戦」を明確にしました。即ち、会員数の落ち込み、高齢化する会員、宗教的アイデンティティーの不一致、組織の非効率性です。質問ですが、宗教的アイデンティティーの不一致と言われる時にあなたの心にある思いはどんなものですか。それは、YMCA に繋がる組織の根幹に関わることですか、それとも、何か地域的あるいは現代的なものですか。

IPE（ムン次期国際会長）：皆さんもご承知の通り、P. W. アレクサンダーは、地域社会への奉仕、YMCA への支援および他の人の生活改善を図ることにより人類にとってのより良い世の中の建設を「イエスキリストの教え」に基づいて行うためにワイズメンズクラブ国際協会（YMI）を創設しました。この、YMI 創設の情熱は、多くの文化や多様な考えが共存する国際化時代の価値観に見ることができます。異なる文化や信仰的背景の調和により、より良い世界を作るため、特定宗教内部の調和のみならず、異なる文化間や多文化国家の相互協力が必要となります。

ワイズダム拡張の中で、創設の精神を狭義に解釈することによる宗教的アイデンティティーに関わる数多くの長期にわたる不一致が存在します。

従って、私は、イエスの教えに基づき、私たちのアイデンティティーを強化することの出来る異宗教間の奉仕活動の活性化を図り、私たちの様々な宗教との関わりやそれに関連した奉仕活動を強化すべきと思っています。

私は、私たちの組織の目標やプログラムに即した多文化クラブ活動の活性化に期待しています。私たちは、あらゆる宗教の人々共通の関心や価値観を持つ活動を積極的に行うことで、ワイズダムの発展を導きます。皆さんは、麗水市（Yeosu/韓国）で行われる国際大会の期間中、多くの信仰グループによるこの協働を目の当たりにされるでしょう。

YMIW：資料の一部にある「目標」についてですが、あなたが掲げた会員増 10％は極めて現実的なものであると思います。これは称賛に値します。あなたが「熱心な献身的なリーダーシップ」を育成したいと発言される際、明確な考えをお持ちと思います。お話しください。

IPE：YMI は、2022 年に 100 周年を祝うために新たな指導力を必要としています。ご承知の通り、私たちの組織の変革は、国際本部の役割を最小化する、区の活性化の方針を決定する、サテライトオフィスをタイに立ち上げる、2018 年 10 月には新たな国際書記長を迎える、など加速しています。従って、この変革の時代を牽引する適切な指導力を持つことが大変重要なのです。

指導力を基盤に、私たちは熱心な会員の開発を強化することができ、新たな考え方に基づくクラブ、例えば、専門職クラブや共通趣味クラブの発足、YMCA との積極的な協働等を強化することができます。熱心な会員が私達の運動のオーナーであり、彼らはクラブ活動を通じて地域社会の発展に積極的に参加するに違いありません。

私のテーマ「私たちは変えられる」は熱心なメンバーである皆さんにはご理解いただけるでしょう。また、私のスローガンは「挑戦への勇気」です。変革のための必要条件があります。第一は指導者の役割が重要ということです。人は、ビジョンを持つために動機付けられなければなりません。変革を進めようとする指導者の決断に従うメンバーがいなければなりません。そして、指導者は、メンバーに対して新たな選択肢が妥当である保証を示さなければなりません。さあ、挑戦と変革への勇気を持ちましょう。日々新たな変革を行いましょう!

YMIW：「新しい概念のクラブ」という言葉を 1 年前に初めて聞きましが、その後、これが如何なるものなのか、説得力のある考え方が示されていません。これについて本誌読者にお教えください。

IPE：私には、クラブ創設および「新しい概念のクラブ」に関する幾つかのゴールをもっています。

第 1 に、YMCA や他の国際的奉仕ネットワークとの計画から実施に至る効率的な協力関係を通じて国際的ボランティア精神を最大化する。第 2 に、ユースや若いメンバーに対応する、確固とした、かつ開放されたクラブ組織を打ち立てる。第 3 に、様々な信仰を持つ人々に奉仕できる、健全かつ開放的なクラブ組織を設立する。

これらに基づき、私は会員の趣味や社会的関心に焦点を絞ったクラブ活動を組織化することができると考えます。また、私は、

クラブ活動に関係付けて最先端の IT を活用するならば、さらに広範な活動になると考えます。

YMIW:あなたはまた、「YMCA との協働」をひとつのゴールと発言しておられます。これは、特に欧州や西半球で実施されていませんか?これを、全ての地域、特に、キリスト教信仰を基本する組織とその活動が怪しげであるとされている国において普遍的な義務付けされたゴールとすべきではありませんか?

IPE:これは地球規模のゴールです。ワイズメンのバックグラウンドとして YMCA を支えるということは、次世代の指導者となる若者を支援し、育てるという私たちの使命が実践されていると言えます。皆さんの地理的所在地に関わりなく、このふたつの組織の関係を修復し、強化しなければなりません。この関わりで、2018 年の国際大会には、世界中からおよそ 30 名の有能な YMCA 主事を招待しています。

YMIW:あなたが「ビジョン」に関して語られた「結果重視の活動」の適応とはどのようなことを言っておられるのでしょうか。

IPE:私の考えによると、YMI の国際貢献は、結果重視の活動を通じて行われる発展途上国における数多くの紛争や課題への解決策となります。

私たちは、より良い世界構築に対する差し迫った課題を解決するための真の活動を通して、自尊心および果たすべき任務を向上させるでしょう。

私たちは、現在の YMI の展望を超える、他の組織との戦略的協調関係の発展に焦点を当てるでしょう。

そうすることにより、私たちの活動は、この社会が要請する真の奉仕活動となるでしょう。その結果、支援者や提供者が積極的に参加する堅牢で総合的なプログラムの構造がごく自然に構築されます。政府、市民社会組織および民間分野での合意形成が可能となり、私たちは、地域の緊急事態解決に資するため YMI 協働の拡大を図ることができます。

YMIW:あなたは「他の組織との協調(パートナーシップ)」とも言われました。YMCA の他にあなたが心に描く特別な組織がありますか? あなたは、パートナーシップについての設計図をお持ちですか?

IEP:私たちのパートナーシップは、私たちの使命とゴールを達成するために私たちの組織を発展させるのが目的です。従って、私たちは、地域発展に取り組む国際赤十字赤新月社連盟共々、国連の様々なシステムと繋がってゆきます。

特に、私たちが諮問資格を有する ECOSOC(国連経済社会理事会)とは密接に働いて行きます。ECOSC の各大陸本部と私たちの各地域、各区が、ユースおよび地域発展に関わる共同プロジェクトを立案することを奨励します。

私たちはまた、宗教的奉仕の多様化を推進するべく、国際的多宗教奉仕組織との交流計画を進めています。例えば、YMI は既に平昌冬季オリンピックの際、Global Business Peace Prize に参加しました。これは、国連、オリンピック組織委員会、Interfaith Peace Foundation 等による、世界中からビジネスマンが集って、宗教の壁を越えて平和に貢献する機会でした。

YMIWあなたは、ユースを最優先分野と位置付け、「リーダーシップトレーニング」を最も前進させるべき分野の一つと言われました。これは、会員に対する LTOD と同じように担当する国際事業主任を置き、新たな優先分野として形成されようとしているのでしょうか。

IPE:これは、私たちにとって、大変重要なことです。私たちの組織は、既に、YIA(ユースのワイズ運動への参加および活動) を担当する国際事業主任を置き、また、ユース開発特別委員会を設置しています。クラブやコミュニティーレベルで実施される試験的プロジェクトを通じて、私たちは、ユースリーダーシップを改善し、最も効率的な方法によるユースリーダー教育およびユースのための基盤強化を行う計画です。この運動は、私たちだけのものではなく、YMCA の Uni-Y(学生 YMCA)の再活性化を誘引するものです。両団体は、学 Y クラブの再活性化に対して共に努力していかねばなりません。

YMIW:最後になりますが、あなたは「Y's Men の遺産計画」を示唆しておられます。これについて何か付け加えることはありますか?これは、特に 2022 年に迎える 100 周年に鑑みて大変良いことだと思います。お祝いいたします。

IPE:未来は、過去の窓を通じてもたらされた新しい変化の贈り物です。ポール・ウイリアム・アレキサンダーの創設精神の継承および発展は、私たちの伝統と新たな未来の約束を根付かせるための特別なプロジェクトとなるでしょう。100 回目の創立記念を祝う中で、私たちの創設者からの遺産を見直すことは、単に活気のない現状を変える原動力というだけではなく、ワイズメンの誇りを増進させるものです。

私は、このプロジェクトがリーダーやメンバーの貢献によって実現した時こそ、更に意味深いものとなると考えます。行事を考えたり、詳細な計画を策定したりする特別委員会が組織されます。

私は、リーダーやメンバーが、この特別な構想を推し進めるために重要な役割を果たしてくれるであろうことに全く疑いを持ちません。

YMIW:大変ありがとうございました。実り多き年となり、また果断な指導力が発揮されますように。

来期への挑戦と展望

（2018 年 2 月開催の国際年央会議に提出された次期地域会長のレポートに基づき編集）

シェリフ・アワッド・ショウクリー（アフリカ地域）

シェリフ次期会長は、経済の不況に鑑み、アフリカや同じような状況にある他の地域の会費の軽減を主張しました。国際執行役員と協議をして、アフリカ地域のこれまでの未払いの会費をどう処理するかについて、詳細な財政的「救済」計画が話し合われました。

優先事項としては、アフリカのワイズダムが直面する課題に対応すること、ワイズの経験豊かなリーダーと地域のニーズについて議論することなどが挙げられています。長期的な目標には、会員増強、クラブのエクステンション、質の高いメンバーの発掘、新しいメンバーやリーダーへの研修を通してワイズ運動に関する知識の欠如を無くしていくこと、メンターの存在を通じてユースの参加を奨励することなどが掲げられています。

田中博之（アジア太平洋地域）

田中次期会長は、彼のレポートにSWOT分析*を利用しました。彼は韓国地域との合同次期理事研修を継続することを望んでいます。現在の焦点は、仙台における2019年の地域大会です。しかし、彼の任期中に、会員の高齢化への対応、YMCA（APAY）とAPのトロイカ体制との積極的な協働も進めていくことを目指してています。彼はまた任期中に地域のウェブサイトの再開も計画しています。

彼の主題は「アクション!」で、スローガンは「誇りと喜びをもって」です。*SWOT分析:強み(strengths)、弱み(weaknesses)、外部における機会(opportunities)とさらされている脅威(threats))を総合して戦略を分析すること。

レジナルド・スプリンガー（カナダ・カリブ海諸国地域）

レッジ・スプリンガー次期会長は、カナダ・カリブ海諸国地域とアメリカ地域の合併が足踏み状態であると説明しています。彼の地域では、小人数クラブの特例措置を無くすことはさらに検討が必要であるという意見があります。（2017国際議会の議案で、2018年1月にクラブ会長による投票で可決されました。）これによってクラブのメンバーが退会するのではないか、クラブとワイズメンズクラブ国際協会の結びつきが弱まるのではないかと懸念しています。

カナダ・カリブ海諸国地域からあまり多くのメンバーは参加しませんでしたが、ラスベガスでの合同地域大会に関わったことは、当地域にとって大きな成功でした。

ユース・フォーラムがやっと形となり、次年度においても、ユースを最大限支援することが計画されています。

ポールーヘニング・レウェンダール（ヨーロッパ地域）

ポール次期会長は、持続可能な発展プロジェクトや人道的な支援を行っている地域のパートナーに深く関わっているスエーデンの信仰に基づいた団体である「ディアコニア」と協働することがヨーロッパ地域の希望であると述べています。地元では、ホームレスや難民に焦点をあてて活動します。彼は、クラブが路上生活者を例会のゲストとして呼び、「物語を話してください。その代わりに食べ物を差し上げます。」というテーマのもとに、食べ物との交換で、彼らの経験を話してもらうよう奨励しています。

K.C.サミュエル（インド地域）

サミュエル次期会長は、会員の維持、発展の促進について具体的な案を持っています。部を越えた総合フォーラムは、新しく会員になりそうな人を対象に、ワイズ運動について、および奉仕団体の一翼を担うとはどういうことかを学ぶ機会を与えます。すべてのレベルでの研修を義務化し、そのために特別なチームが作られています。

インド地域の会員数の報告が懸案事項となっており、半期ごとの締切に、国際本部がタイムリーで正確な情報が得られるよう、どのように対応するか具体策の概要が、理事と協議の上、提示されました。

チャ・ヨン・ドゥ（韓国地域）

チャ・ヨン・ドゥ次期会長は、彼の前任者の課題に対応するにあたり、一貫性をもってあたることを第一としています。彼は、韓国地域研修センターを完成させたいと望んでいます。

彼はまたYMCAとの連携を強化し、両団体のメンバーが利益を得られるように、共同事業を奨励しようとしています。新しいメンバーを引きつけるイメージ・ビルディングも短期目標に位置付けられています。しかし、2018年国際大会を大成功に導くべく、すべての努力が傾けられています。

彼の主題は「この世界をより美しく」であり、スローガンは「ワイズメンのいるハッピーコミュニティー」です。

ソンジャ・マーリー・ミューラー（ラテンアメリカ地域）

ソニア次期会長は、コミュニケーションが問題であると述べています。特にブラジル区では会員の高齢化が主な原因で、コンピューターの使用率やコンピューター・リテラシーが低いのでコミュニケーションが困難です。同時に、地域の地理的な大きさにより、顔と顔を合わせての研修も必ずしも容易ではありません。

うれしい点は、エクステンションの大きな努力があって、コロンビアで2つの新しいクラブの設立の手続きがほぼ完了しました。

ティボール・フォキ（北アメリカ地域）

ティボール次期会長は、アメリカの約45%のクラブが、アメリカ地域とカナダ・カリブ海諸国地域の合併に賛成であると述べています。しかし、最善の方策を決めるには、更なる研究と分析が必要です。彼はポータルバズの使用がアメリカ地域で進展していることをうれしく思っています。

レッジ会長（カナダ・カリブ海諸国地域）と同様に、国際議会がクラブの投票権の要件を再考するよう提案しています。特例を認めない議決をした時に、国際議会は、この件に関連する様々な事案をよく理解していなかったのではないかという意見を述べています。

彼の長期目標には、未来への展望を持ってユースと協働することが含まれています。

「3人のリーダーは1人よりベターか?」

国際書記長　西村隆夫

ワイズメンズクラブの2017-2018年度が6月で終了し、多くの地域、区、部では、退任するリーダーへの感謝と就任する新しいリーダーへの歓迎の意を表する大会が開催されたことと思います。昨年、国際議会がラスベガスで開かれ、ガイドライン310を「この協会の1単位として組織された少なくとも3人のグループは、クラブと称される。」と改訂する議案が承認されました。

これは、われわれがリーダーシップの取り方として遵守している「トロイカ」にある意味で似ています。「トロイカ」も3名のグループでワイズ運動の管理的な役割を担っています。ワイズメンズクラブは、伝統的にこのシステムを活用しており、これによって選任された役員は、少なくとも3年奉仕することが求められます。例えば、理事の場合、1年目は次期理事として、次は理事として、その後直前理事として奉仕します。さらに元理事となります。これは単に、管理のためだけに考案されたものではなく、より良いガバナンスのためでもある素晴らしいリーダーシップのメカニズムの一つです。その理由は明らかです。どのリーダーも自分の任期だけが「成功」でなければならないというような利己的な考えを持たないからです。

組織や団体を管理運営する他の方法もあります。それは、例えば4年または5年と任期を長くすることです。その場合、リーダーが変わるとほとんどのスタッフも変わります。私たちは、われわれの主な目的が奉仕であり、単に組織を動かすことでは無いことを理解しているので、将来、この組織にとって何がベストかを探求する必要があります。しかしながら、多くの国で直面している高齢化の問題により、長期間

もっと馬力を!

任務に就けるリーダーを探すこともより困難になっているかも知れません。従って、トロイカであれば、リーダーが3人いて、責務を果たすために望ましい支援が期待できます。

政治においては、前任のリーダーの決定を覆すことはよくありますし、時によってはそれが必要な場合もあります。しかし、同意された組織のミッションを遂行するために、私たちは過去と未来のリーダーと協働する必要があります。特にすべてのレベルにおいてYMCAとの協働は必要です。

この号が発行されるまでには、多分私の後任が誰であるかを皆さまはお知りになると思います。その方が任に就けるようになり次第、私は国際書記長の役目をその方に正式に引継ぎます。ただし、2019年2月末までは移行期間といたします。私たちの素晴らしい運動である「Towards 2022 and beyond」のためにリーダーと協働するにあたって、新国際書記長は、新しい精神と熱意を吹き込むことと確信いたします。

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。(箴言3章:5−6節)

トロイカに神のお恵みを!

麗水の後はオーデンセ!

2020年ワイズメンズクラブ国際大会
デンマーク・オーデンセー冒険の都市
2020年、
デンマークでお会いしましょう!

私たちは、ワイズメンズクラブ国際協会の団結を強めるような冒険的で記憶に残る大会とするため、実現しうる最高の内容を作り出すよう努力します。

際立つために生まれたのに、なぜ溶け込もうとしてしまうのか?

職場での多様性と一体性について

トム・ベルガッセ

職場での多様性は重要です。我々のリーダーシップチームにおいて、多様性がいかに大事かということは広く認識されています。目標を成し遂げようとし、競争力を維持したいと願ういかなる組織にとっても、多様性は必須です。多様性は、新しいアイデアを生み出し、創造性を高め、市場ニーズに応える手助けとなるものです。その重要性は、私達自身のコミュニティーにも言えます。

多様性の重要性の調査

多様性がもたらす恩恵は様々で多く、マッキンゼー・アンド・カンパニーの「Diversity Matters」という最近の調査によると、ジェンダーに配慮のある上位 25%の企業の方が、収益が、それらの国の産業の平均値を越える確率が 15%高くなるとのことです。調査報告の著者によれば、多様性があればある程、その組織は、最高の人材をより多く確保でき、より優れた顧客対応が可能となり、従業員の満足度も増し、より効果的な意思決定ができるようです。

この報告によれば、全てのカテゴリーにおいて多様性を良く実現している組織は一つもありませんでした。政策は国により違うものの、共通のアプローチとしては、年齢、人種、民族、性別、宗教や障がいのこれら全てにおいての多様性を実現するための、一つのプログラムを採用することでした。

このアプローチでは、人種や民族といったカテゴリーよりも、性別のような目に見えるものに、より注目が集まることになり得るのです。現在、多様性はあまりにも大まかに特徴づけられ、管理されているので、より深い視点が必要です。個人それぞれの事情をふまえ、細かいニーズにも行き届いたアプローチが不可欠です。

さらに、職場における多様性を完全に実現するためには、一体性にも多様性と同等に焦点を当てることが必要です。もし、私たちが多様性を、私たちには違いがあり、それが人間というものだと定めるなら、一体性は、私たちがこれらの違いについて尊重し、認め、理解する能力です。組織は、一体性に関する方針を検討しなくとも、多様性のある人材を採用することが出来ますが、そのような組織では、次第に「in」と「out」のグループに分かれます。「out」の人(一般的に人口統計上の少数派を指す)は、長い間仕事を続ける可能性は低いと言えます。

人材を惹きつけることと、逃さないこと(定着させること)は同等に大事なことであり、それらを実現するには同等の努力が必要です。性別に関して言えば、一体性の基本的な段階としては、女性が、自分達は職場で歓迎され、尊重されている、と思えるようにすることです。これらをふまえて、柔軟性のある労働条件、休職制度やベテランによる新人への指導等の方針が策定されるでしょう。

「職場における多様性を完全に実現するためには、一体性にも多様性と同等に焦点を当てることが必要です。もし、私たちが多様性を、私たちには違いがあり、それが人間というものだと定めるなら、一体性は、私たちがこれらの違いについて尊重し、認め、理解する能力です。」

多様性のある組織の運営

多様性と一体性は、いずれも容易に実現できるものではありません。多様性のある組織を運営することは、そうでない組織を運営することよりも遥かに難しいもので、全く異なるスキルが必要です。

組織のリーダー達は、課題に立ち向かって、現状維持さえすればよいという潜在意識や、「今不都合がないのに、なぜ変えなければならないのだ」という姿勢をやめるべきです。

無意識の偏見をなくすためのトレーニングや、指導などの具体的な目的別のプログラムを実施するべきです。こうした取り組みは、人の姿勢や態度を大きく変化させ、大きな成果をもたらすことにつながります。

なぜ、何を、どのようにするのか?

最後に、多様性と一体性(D&I)を実現しようとする組織には、次の 3 つの質問を是非検討していただきたく思います。

Why(なぜ?):なぜ D&I が重要なのかの理由を明確にする。

What(なにを?):偏見やそれがもたらす意思決定への影響について、リーダー達に D&I について指導する。

How(どのように?):組織的に現状を強化するための方針やプロセスを精査する。

リーダー達は、D&I が価値のあるものだと自ら信じていることを、目に見える形で示す必要があります。それは、他の者が D&I にコミットするように影響を与え、促進させ、鼓舞させるように示されるべきです。

「Diversity Matters」の著者が指摘したように、我々は「多様性のあるリーダーシップチームが作り出すあらゆるチャンス(機会)を最大限活用するために、より多くのことをしなければならない…今、私たちは、深く相互につながっている世界に生きている」のです。この研究報告は、これまで成されたことを裏付ける一方、まだ多くの課題が残っていることを思い起こさせるものです。

トム・ベルガッセ博士は、世界的に知られているコンサルタント、プレゼンター、文化的指導者。オーストラリアのメルボルンの Cultural Synergies の設立者、著者。専門は、文化的知性、一体的かつ倫理的なリーダーシップおよび持続的、地球的リーダーシップ、国際チームの業績普及。

ワイズメンズクラブのリーダー達が TOF-GPF プロジェクトを見学するためブラジルに立ち寄る

2018 年 2 月、チリ・ヴィニヤ・デル・マールで開催された年央会議に出席してインドに帰国途中、フィリップス・チェリアン国際会計は、アイザック・パラシンカル元国際会長と、TOF-GPF 委員会の T. M. ジョース委員長と共に、ワイズメンズクラブとその事業を見学するためブラジル、サンパウロに短期間滞在しました。

ユーニス・チアラディア・ブラジル区理事、ナンシー・A・ギメネス・サント・アマロワイズメンズクラブ会長およびクラブメンバー、YMCA スタッフ

一行は、クラブの支援により、地元の YMCA コミュニティ開発センター（以下 CDCs）がその内の幾つかはこれまで TOF-GPF の資金提供を受けて、今日実らせているいくつかの素晴らしい地域社会の奉仕活動を目のあたりにしました。フィリップス氏は、YMCA と協力して実施した典型的なコミュニティーサービス、そして私たちの運動と会員が認められ、感謝されたことをこの YMI ワールドに掲載すべきと感じました。

サント・アマロ CDC では、TOF-GPF の基金でコンピューターやその他の技術的支援を受けて、子供達はコンピューターとデザインの訓練のために午前／午後のクラスに参加し、昼食を摂り、料理やダンスを学び、自分たちの図書館を活用しています。

在ることに学び、行動することに学び、知ることに学び、共に生きることに学ぶ。この 4 つの教育の柱に基づいて、十代の子供達やその家族に公平に能力と技術力を教えることに焦点を当てています。

サーカス学校テントの下でヴィラレの子供たちとワイズの訪問者

サンパウロセンターの YMCA CDC は、サンパウロ YMCA の向かいにある長老派教会で運営されています。そこでは、絵画やコンピューターの指導、昼食会が行われ、スポーツや水泳の授業は YMCA で行われています。ブラジルで最も古いサンパウロ・セントロ・ワイズメンズクラブ（1957 年にチャーターされ、市の公式カレンダーにはそれを示すマークが記載されています）は、この CDC を支援し、子供たちに牛乳を提供しています。

エンターマンド・ビラ・レ YMCA CDC はサーカス学校で有名です。実際のサーカス・テントでは、価値に関するメッセージか掲げられ、子供達は音楽、舞踊、芸術、そしてもちろんサーカスの練習に励んでいます。サーカスの練習は、深く愛されたテントの中で活動し、他人や自分自身を信頼し、仲間に依存しつつ自立することを学びます。彼らへの援助の手は、すべての必要とされている支援です。サーカスの衣装と共感する市民によって、子ども達の自尊心が養われ、自己開発の第一歩となります。子供達はまた、自分達で栽培した有機野菜で、豊かな昼食を摂っています。

フルーツ・ジャム作りの準備をしている子供達

グァルリョス YMCA CDC のいくつかの TOF-GPF 事業は、1991 年に遡って、この訓練された人材が得られる、活気のある地域での事業を伸ばそうとする工場や卸売業者とともに、地域の成長と発展の原動力を担っています。この間、YMCA CDC は子供たちや 10 代の若者を教育し、ダンス、絵画、エキゾチックな果物づくりや有機野菜の栽培を教え、昼食の提供を続け、また、大人になっても安定して仕事が続けられるよう大工、仕立て、布地印刷などの工芸クラスを提供し続けて来ました。

フィリップス国際会計が
布地印刷を試しているところ

TOF-GPFは、グァルリョスYMCAが強力な家族と強固なコミュニティをつくる改革の手助けに役立っています。というのも、ウイラプル・グァルリョスのワイズメンズクラブのサポートがあるからです。

イタケーラYMCA CDCは、「価値ある生活」や「CDCでの種蒔き」(有機野菜の栽培)などの事業を通して、10代の子供達と協力して行っています。TOF-GPFからの支援は、将来の成功に向けた技術教育です。彼らのプログラムのひとつは、様々な活動においてより良いチームワークと参画が得られるための、「お泊り会」です。毎月最終金曜日に彼らは集まり、YMIおよびYMIのイタケーラ・ワイズメンズクラブへの支援について話し合われますが、これは重要であり、多分他ではあまり見られないことであり、そして最も有益なことです。

ユーニス・チアラディア・ブラジル区理事
およびシルビア・レイエス・デ・クロチ

YMCA グァルリョス CDC の少年少女達

ワイズメン医師による無料医療支援

韓国のワイズメン医療関係者のチームが最近ミャンマーを訪問し、遠隔地にある農村の人々、特に子供達に基本的な健康診断と治療を行いました。このチームは、外国へ医療品を持ち込むこと、現地にて合法的に医療提供者としての働くことの困難さにも挫けず、現地のYMCAの助けを借りて、費用および最寄りの診療所まで遠いという理由で、そこへ行けない人々に基本的な健康と衛生のサービスを提供しています。引用:TOF-GPF委員会のフェイスブックのページ

仕事中:注射の準備

危機的な社会的脆弱性の中でコミュニティーを創る

IHQのトレーシー・モビィグリアッティーの寄稿:私は、チリでの2018年・年央会議の折に、チリ・バルパライソのワイズメンとYMCAがスポンサーの「バルパライソ近郊の社会的に取り残された地域において、危機的な社会的脆弱性の中でコミュニティーを創る」TOF-GPFプロジェクトを訪れる機会を得ました。

私は感銘し、また、全てのプログラムが、取り残された家族たち(子どもも親も)を計画と実施において参画させ、目的のコミュニティーに最も奉仕できるように注意深くコーディネートされていることを明確に見ることができました。計画には、学校での個人教授、樽・ごみ箱の塗装、コミュニティーの花壇が含まれています。私の滞在の間、地元の家族のための保養キャンプの計画で大層盛り上がっていました。最近、最新の情報をお願いしましたが、その報告を、喜びを持って以下に報告いたします。

「夏は暑いですが、貧しい家庭は、家の外で休暇を楽しむことはできません。子どもたちや10代の若者たちは、大人のような気晴らしを持っていません。家庭内外の争いは、暇で自由な時間を沢山作ります。YMIのTOF-GPFプロジェクトのおかげで、山岳地帯に近いバルパライソのリクレーションセンターで家族キャンプを開催いたしました。そしてこれは、子どもたちや甥、姪や近所の人たちと休暇を過ごしたい親たちや大人の参加者がイニシアティブを取ってのプロジェクトでした。

家族キャンプがアナウンスされた日、大きな期待と喜びが巻き起こりました。42人の参加者、子どもたち、若者たち、親たち、高齢市民、近隣の人たちを含む30人のリーダーとボランティアが登録しました。4日間はあっという間に過ぎました。リクレーション、遠足、水遊び、休息、精神的な活動、夜のゲームとキャンプファイヤーなどのプログラムが散らばめられました。誰もがもっと長く過ごしたかったです。親や親せきにとっては、彼らの子供たち、夫たち、近所の人たちと同じときを緊密に過ごす良い機会でした。彼らは田舎の星空の夜に感動しました。彼らは、リフレッシュされた心とストレス、憂鬱から解放されて家に戻りました。それは決して忘れることのできない素晴らしい体験でした。ある家族は、彼らはこれまで休暇を取ったことがなく、全てが夢見ていた以上の素晴らしさだったと言っていました。忘れがたいときを過ごした家族たちや近隣の人たちのYMIからの贈り物に感謝申しあげます。

キャンプでの遊び時間

コミュニティーサービス

精神障がいの方々への慰めと世話

マレーシアのシルバーステートクラブのメンバーによる「慰めと世話センターへの」最近の訪問が成功裏に行われました。10人のメンバー、家族と友人が精神病院を追い出され、帰るべき家や家族がない65人の入居者に少しの喜びを持っていきました。世話人である80歳の看護婦オンさんは、彼女の家族や入居者の内の何人かからの支援を受けて運営していますが、経済的な支援をとても必要としています。

彼女の無私さと良き働きは、まさに称賛に値します。クラブはビュッフェランチ、雑貨、お小遣いそしてお鍋いっぱいのお粥を寄贈いたしました。

シルバーステートクラブのフェイスブックから

昔の大戦の英雄を偲んで

豪州バララットの地域社会は、各種奉仕団体から多くの支援・恩恵を受けています。設立 78 年になる私の所属するバララットワイズメンズクラブを初め、他のロータリー、ライオンズ、教会グループ、その他奉仕団体が地域社会でいろんな活動に貢献しています。地元 YMCA のための資金集めの事業には、毎年の地域の祭りの他にも、ふたつの建物の建設売却、車の展示会、物品販売会、ウオークラリー、クリスマスツリーの販売などがあります。クラブのメンバーは各個人としても地域社会を支援しています。

ブルース・E・プライス（左から 3 番目）、お祝いの気分の中で

私が関わる委員会は、今年は特別の意味がある年になりました。今年（2018 年）は第一次世界大戦の終結 100 周年に当たります。この委員会の目的は、バララット戦勝アーチと栄誉大通りを守り、その名を広めることあります。

1917 年、当時あった繊維会社 E.Lucas & Co. とその従業員団体「450Lucas Girls」が、第一次大戦にバララットから義勇兵として従軍した人々の栄誉を称え、その大通りに植樹をすることを提案しました。1917 ～ 1919 年にかけて、22 キロの街路に 3,901 本の植樹をしました。それぞれの木には従軍兵士の名前の札がつけられました。この樹々の名札の中には 58 名の看護師が含まれています。この大通りは豪州で一番長く、世界でも恐らく一番長い大通りでしょう。1920 年には、この写真にあります「戦勝アーチ」が、この街路の入り口に建てられました。このアーチは、当時の英国皇太子、後のエドワード 8 世によってオープンされました。

1931 年にこの戦勝アーチと栄誉大通り委員会が組織され、私がこの委員会の委員長を、祖父、父から引き継いで 38 年になります。

その他のプロジェクトには、彫刻が刻まれた記念の壁の建設、インフラと歴史的遺産とを繋ぐ高速道路の歩道橋があり、これは、賞をもらいました。2017 年には、母親のブロンズ像が設置されている特別な国立「嘆きの母の庭が」オースラリア総督によってオープンされました。この像は、家で不安や嘆きを味わっている家族、友人を現すものです。この像を彫ったピーターコアレット・オアム氏は、フランスのフロメル、中東のベエルシェバなどの記念施設に作品を残しています。

さらに継続事業としては、大通りの将来のために 2,100 本の樹々を 20 年かけて植え替える事業です。この事業の一部は豪州政府の補助金により支援されますが、すべて、重要なボランティアによる地域奉仕が関わっています。

1977-78 国際会長
オーストラリア・ビクトリア州・バララット

震災被災地を支援して

2017 年 10 月、西日本区の京都部は、熊本の少年サッカー選手を京都での特別なワイズメンのプログラムに招待しました。熊本は、2016 年に発生した大地震の被災地です。彼らは、京都と熊本のプロサッカーチームの試合を観戦し、ハーフタイムにはワイズメンとともにトラックを行進しました。

翌日には、京都の少年サッカーチームとの友好試合を楽しみました。チケットを売ったり、街頭募金で復興支援募金を 3,500 米ドル集め、熊本 YMCA に寄付いたしました。

大野 勉、西日本区理事

熊本の少年サッカー選手がワイズメンとともに災害支援のために行進

キャピタルゲイン!

オーストラリアの首都キャンベラは、魅力的な美しい生活環境です。この都市は、インド南部のケララ州から移住してきた多くの家族の新しい故郷になっています。20 年前、シドニー大学で学んでいたケララ出身の学生たちの何人かが親友になりました。彼らの友情が長続きし、家族ぐるみの親交に発展してきたのです。

ケララ州のクイロン東ワイズメンズクラブの会員 V.S. ラダクリシュナン氏が、EBB(国境を超えたクラブ拡張) 推進の一つとして、キャンベラにワイズのクラブを設立するようこの家族たちに働きかけました。中心になった者たちが友人に加入を呼び掛け、約 1 年半前から、土曜日の午後に家族ぐるみで例会を開くようになりました。クラブ役員が選任され、彼らの居住地域で給食のチャリティー活動が組織されました。ビーヌ・ジェイコブ会長とミニ・シャジュ書記の率いる女性陣がこの活動を支えています。

今年 4 月 28 日(土)、キャンベラ Y サービスクラブは、ビル・シュミット理事の主宰による特別の式典をもって、正式に国際協会オーストラリア区に加盟しました。同理事はヴィクトリア州ベンディゴからキャンベラへ妻レリーン元・区ワイズメネット事業主任と共に旅行して来ました。同理事は、クラブ役員(セバスチャン・マシュー会長、ジョセフ・ジョージ書記、ロヒス・ラダクリシュナン会計)の就任式も執り行いました。この式典には、会員の家族も参加し、アデレードからジェニファー・ジョーンズ次々期国際会長とラッセル・ジョーンズ国際議員も駆けつけました。式典後は美味しいインド料理が振舞われました。

キャンベラクラブ会員と家族たち

キャンベラは EBB 推進で設立されたオーストラリア区で 2 番目のクラブになります。1 番目は西オーストラリア州のパースクラブです。私たちはこれらのクラブが良い会合を続け、居住する地域社会に奉仕することを願います。同時に、彼らが世界大の堅い基盤をもつ国際組織の一員となったことにつながりと充足を感じてほしいと思います。ワイズの組織には彼ら新メンバーの出身国も含まれているのですから。

ジェニファー・ジョーンズ　次々期国際会長

(* 表題の経済用語は「 首都にクラブ誕生 」を表現)

私たちの決意　―EMC シンポジウム開催

2018 年 2 月 17 日(土)、東日本区の関東地域の東新部、関東東部、あずさ部、湘南・沖縄部の 4 部合同による EMC シンポジウムが多くの会員を集めて開催されました。

テーマは、私たちにとって今大切な、会員増強についての将来展望で、入会歴の浅いフレッシュなパネリスト 4 名による発題と参加者によるディスカッションが行われました。最後に以下の EMC 決意表明を採択し、今後の EMC への取り組み強化を誓いました。

栗本治郎
東日本区理事

EMC シンポジウム進行中

決意表明

「私たちは、ワイズメンズクラブ国際協会の国際憲法および東日本区の定款に示された目的・モットーに賛同し、誇りと喜びをもって、ワイズメンズクラブの会員となり、活動を行っています。そして、この活動がこれからも継続、発展していくことを願っています。しかし、近年、残念なことに、会員の高齢化、減少の傾向が強まっており、活動の停滞も見られます。このような状況に歯止めをかけ、より活発で豊かな活動を行うために、私たちは、自らがなすべきことを今考え、今行動に移すことが必要であると認識します。そのために、私たちは、一人ひとりが志を持ち、思いを巡らし、知恵と力を出し合うこと、そして、勇気を持って変革していくことをここに決意表明いたします。」

魂の真言　　マックス・エディガー＊

プレゼンテ!　バスタ!

The Charter for Compassion（慈愛憲章）の臨時ディレクターであるマリリン・トルコビッチ女史は、彼女のブログで次のように述べています。「ラテンアメリカには、人権や正義のために戦って命を落とした人物の名前を大声で叫ぶ伝統があります。その人物の名前を呼んだ後に“プレゼンテ（生きている）”と叫ぶのです。それは、彼らの死が無駄でなかった事を認めることを象徴的に行うためです。我々は、彼らの事を記憶しているという。」

我々には、その勇気や偉業や崇高な資質を賞賛できる人物―英雄を必要としています。彼らは、困難な仕事をする際の励みとなり、より良き世界を築くために私達に必要なビジョンを崇高にする手助けとなります。残念ながら映画やテレビの物語に登場する英雄達は、一般的に言って人権や正義/公正を促進する英雄ではありません。これは残念な事です。なぜなら、現実の世界は、真の英雄達で溢れており、彼らが　“生きている”と認めることで、我々は、彼らの人生を通じてもたらされた希望とビジョンとエネルギーを得ることができるからです。

私自身の生活の中にあった人種的偏見を認めるように要求し、私に自己変革を迫ったブルンジの若いアフリカ人女性モニカのことが頭に浮かびます。彼女は、1960年代にブルンジで横行した部族主義を嫌い、彼女のキリスト教信仰と行動を通じて部族主義についての認識を高め、部族間の団結を訴えました。私がブルンジを去った直後に起こったある部族蜂起によって彼女と家族全員が殺害されました。私の心の中には、彼女を死に至らしめた鉈が振り下ろされるのを見上げながら、改心する勇気のなかった者達への許しの祈りを唱えているモニカの姿が浮かびます。私は、モニカの名前を叫び、言います“彼女は、生きている”と。

1971年、ベトナムの1人の若者と私は、親友になりました。高校生だった彼は、いつも南ベトナム軍に徴兵されるのではないかと怯えながら暮らしていました。彼は、自国の同胞を殺さなくてはならない戦争に参加するなんて想像できないと私に語り、なんとかして徴兵を逃れようとしていました。彼は、平和を熱望し、もっと平和な国を築くための活動に携わっていました。わずか19歳の時、奇妙で説明のつかない事件で彼の命は断たれました。私は、この若者の名前を叫んで言います“彼は、生きている”と。

テッド・スチュードベーカーは、1970年代初頭、同胞教会を通じてベトナムでボランティアの仕事に携わりました。彼は、南ベトナムの山岳地帯に住む先住民の農業改革を手助けするために働きました。彼は、また戦争反対を強く訴え、マタイによる福音書第5章で語られたイエスの山上の垂訓に忠実に従って生きる彼の献身について公の場で語りました。1971年彼の住んでいた町が対立する勢力間で起こった戦いの火事で焼けた時に彼は、殺害されました。それでも彼は、イエスが暴力を放棄し、愛を拠り所にするよう我々に訴えられているという信仰を貫いたのです。私は、テッド・スチュードベーカーの名前を叫んで言います　“彼は、生きている”と。

タイとビルマの国境に住んでいた1人のカレン族青年ソー・ジョニーの事を思い出します。彼の両親は、彼の住んでいた村がビルマ軍によって攻撃された時に殺害されました。ソー・ジョニーは、その攻撃を生き延びた何人かの人達と共にタイ国内にある難民キャンプに逃げ込みました。彼は、彼の村と家族に対するビルマ軍の蛮行に対して強い怒りを感じました。彼は、たびたび復讐する事を考えました。しかし、彼は、人権と地域社会構築に関する研修コースを受講した後に、国内避難民の人達の居場所を突き止めるためにビルマの戦闘地域に入ることに人生をささげる決意をしました。彼は、避難民の人達が経験した人権侵害を記録に残し、ジャングルの奥深くに身を潜めている間も食べ物を栽培する方法を見つける手助けもしました。ソー・ジョニーは、全ての民族が平和裏に共存できる平和な場所を夢見るようになりました。彼の従事していた仕事は、危険でした。ある日ビルマ軍に捕まってしまいました。3日間拷問にかけられた末に、彼は処刑されました。彼の平和への夢は、生き続けています。私はソー・ジョニーの名前を叫び、言います“彼は、生きている”と。

＊マックス・エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。www.mennolink.org/peace アメリカ合衆国メノナイト教会平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、PeaceSigns の許可を得て転載。

Y's Men International
Y Service Clubs International
YMI WORLD
"To acknowledge the duty that accompanies every right"
Only for private distribution to members

クラブの指導的立場にあるメンバーは、実施した活動に関する記事を 1 枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて国際本部に送られることをお勧めします。記事は、150 語（英語）以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな我々の運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。
記事と写真を www.ysmen.org/ymiworld にお送り下さい。
次号掲載記事の提出締切日:2018 年 8 月 31 日

バスタ!

マリリン・トルコビッチ女史は、彼女の記事の中で以下のように続けます。「ラテンアメリカでの闘争の中で昔から使い続けられているもう一つの言葉に“もうたくさんだ”を意味する“バスタ!”があります。“生きている”“もうたくさんだ”を共に叫ぶ人達が増えれば増えるほど、情熱を持って異なる方法で我々が行動する事の重要性を他者により強く訴え、平和に対する我々の献身を強めてくれます。私は、今も 私の身近に“生き”つづけ、正義が実現した真の平和を獲得する闘争のために私を鼓舞し続けてくれる英雄達が大勢いることを知って感謝しています。彼らと共に私は、言います“もうたくさんだ!”と。暴力、怒り、嫌悪が、これ以上続く必要ありません。我々キリスト者は、特に我々が生きる世界に関する新しいビジョンを持つよう課題を突きつけられています。その課題は、あまりにも大きすぎると思うかもしれませんが、私達は、自らの勇気とエネルギーを引き出すために平和と正義に全てを捧げた英雄達を常に模範として仰ぐことができます。ここで述べた英雄達やその他の多くの特別な英雄達の事を私に知らしめた神に感謝します。

「争ったり戦ったりする代わりに協力の仕方を人に示す事ができるなら、あなたがたは幸いである。その時あなたは自分が何者か、神の家族のどこに位置しているのかを知ることができる。」

「信仰心によって迫害されるなら、あなたがたは幸いである。迫害によってあなたがたは神の王国とより深く関わることになる。」

「それだけでなく、私に対する信仰を捨てさせるために罵られ、追放され、あなたについて嘘をつかれた時には、自分に与えられた神の祝福を数えなさい。それが意味する所は、真実はあまりに身近にあるので、心が安らぐことはなく、真実で心が安らぐ事もないのです。それが起こった時には喜びなさい—もっと歓喜の声を上げなさい!彼らがそれを喜ばなくても、私が喜ぶのだから!そうすれば神の王国すべてが賞賛をおくるでしょう。そして自分がひとりでないことを知るでしょう。私の預言者も証人もこのようにいつも迫害されたのだから。」

マタイによる福音書第4章9-12節（メッセージ版聖書）

プログラムの最新状況

GOLD2.0-改良版利用可能

2年半の作業を経て、ユースと新入会員用のリーダーシップ開発プログラムの利用が可能となりました。次年度以降にこの最新版のプログラムができる限り広範囲で利用できるように、ワイズ運動に若い人達を取り込む努力に関わっている理事、次期理事および区の指導的立場にある役員は、このプログラムが年齢に関わらず新入会員が将来、指導的役割を担えるように準備するためのリーダーシップ開発の良い基礎ツールとなりうる事を心に留めていただきたいと思います。

現時点で、コンタクト先のリストは完全ではありませんが、この情報を他の方と共有して頂き、GOLDネットワークに加入するようお勧め下さい。このネットワークの目的は、現行のリーダシップトレーニング・組織発展の取り組みの基盤として最善のリーダーシップ開発カリキュラムを作成するために議論を深め、情報源を共有する事です。

当初、このGOLDプログラムを立案した際は、先ず国際ユースコンボケーションに参加するユースが使用する事を想定していました。カリキュラム開発の進展に伴って明らかになったのは、このプログラム資料は、新入会員トレーニングの基礎資料として区やクラブにも利用されるべきだという事でした。もしも、あなたがユースの参画とユースその他の新入会員のための最善のトレーニング開発に取り組んでいるなら、あなたのご意見と情報提供を歓迎します。

今後は、あなたの所属する区内のトレーニング方策として利用できるように、扱われる様々な話題に関して更に詳細情報を提供し、あなたの参考に供するべく開発されたその他の情報源をご紹介します。

私は、国際協会公式フェイスブックのページを使ってアイデアと経験を共有し、1972年の設立50周年記念まで継続したように2022年の設立100周年以降のワイズ運動を成功させる重要な鍵としてリーダーシップ開発に重点を置きたいと思います。

GOLD2.0に参加する利点に関しては、
ysmen.org/gold をご覧下さい。

デイヴィッド・ホール、委員長、GOLD 2.0 タスクフォース

ワイズメンズクラブ国際協会は地域に奉仕することにひたむきな男女による活発なグループです。

そして私たちは楽しみながらそれを行っています。

参加し、成長するチャンスです。

個人として

社会的、組織的およびコミュニケーションのスキルの成長
個人的なスキルをクラブのプロジェクト、活動に貢献させる
個人的なアイデアや考え方を実行に移す
国際協会内の交友を楽しむ

地域では

地域社会の若者のための人材と資源を提供する
地域の他の奉仕団体との相互支援体制を構築する
YMCA のプログラムの組織化、実施を支援する

国際的に

学び、他の人々と共有することで、国際的な理解と平和のために働く
学生が海外に訪問することを、ホームステイを提供することにより可能とする
国際プロジェクトの募金活動に参加する
「全人類のためより良き世界を築く」ために励まし、リーダシップを育てる

さあ、ご一緒に

Come join us

For further details: www.ysmen.org